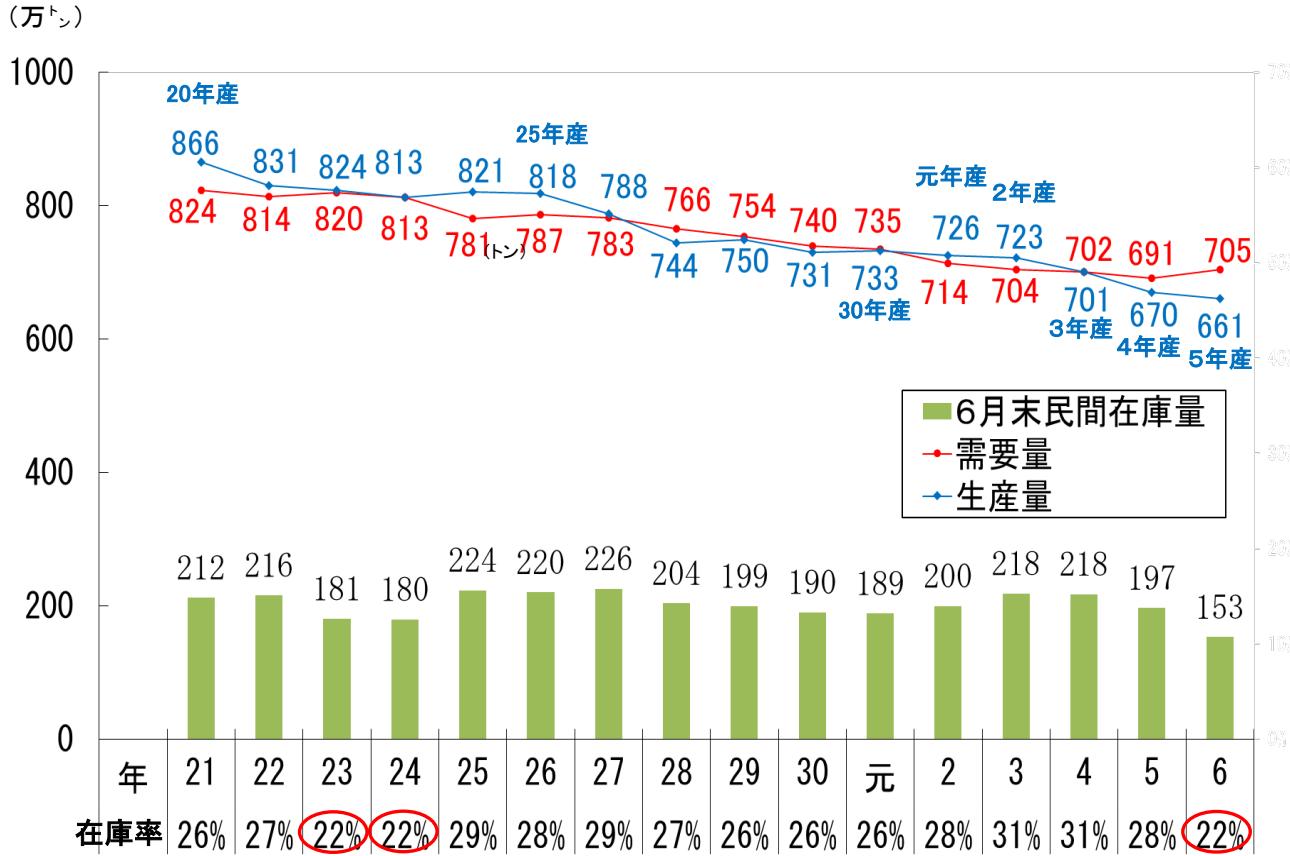


米の需給状況の現状について

(1) 最近の米の需給動向(需要量、生産量、民間在庫)

- 最近の米の需給は、令和5年産米の需要が堅調に推移したことから、令和6年6月末の在庫量は近年では低い水準となっている。
- 一方で、在庫率(在庫量/需要量)で見れば平成23年、24年と同水準であり、全体需給としてはひっ迫している状況にはなく、十分な在庫量が確保されている。既に新米の出回りも始まっているが、引き続き、出荷、在庫等の状況を把握。



(参考)

需要が堅調であること(昨年より14万トンの需要増)の要因は以下のとおり。

- ①食料品全体の価格の上昇が続く中、米の価格が相対的に上昇が緩やか
- ②インバウンド等の人流の増加
- ③高温・渇水の影響により、精米歩留まりが低下

(※上記の需要量・生産量は玄米ベース。精米歩留まりの低下は玄米需要量の増加につながる。)

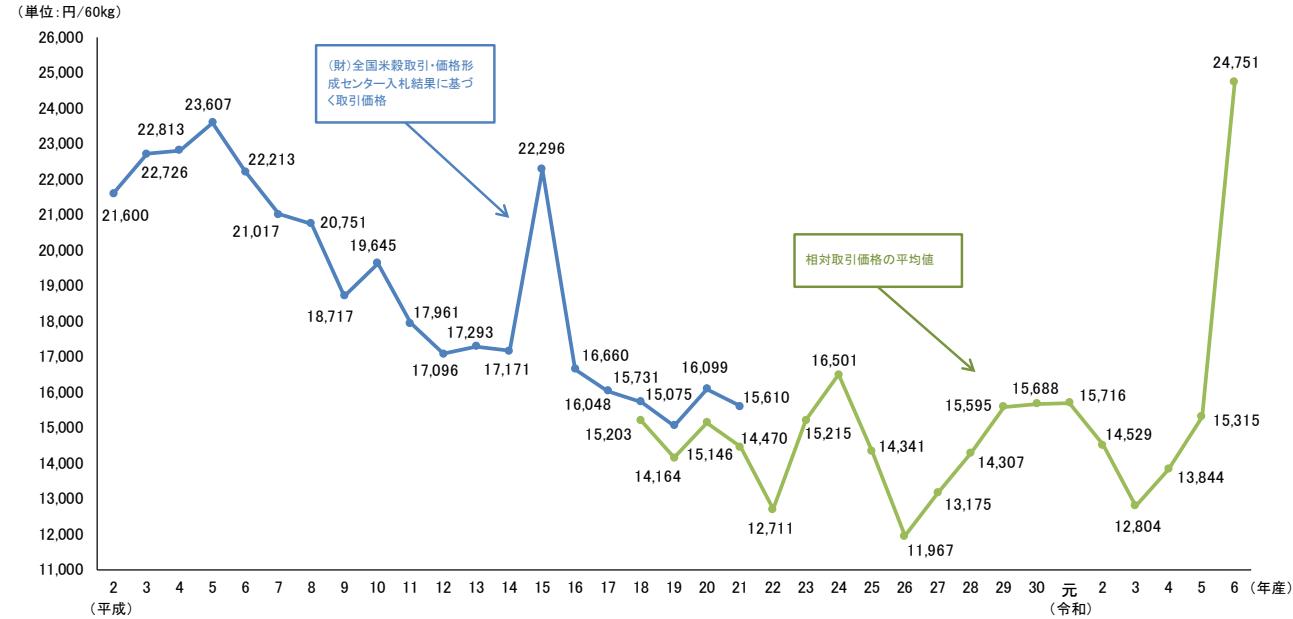
<消費者物価指数の推移>

(令和2年=100、指数)

	R2年	3年	4年	5年	6年
食料	100.0	100.0	104.5	112.9	117.8
米類	100.0	96.8	92.6	96.1	122.8
パン	100.0	99.5	109.6	118.4	121.0
麺類	100.0	99.7	107.1	118.9	121.4

(2) 米の価格の推移

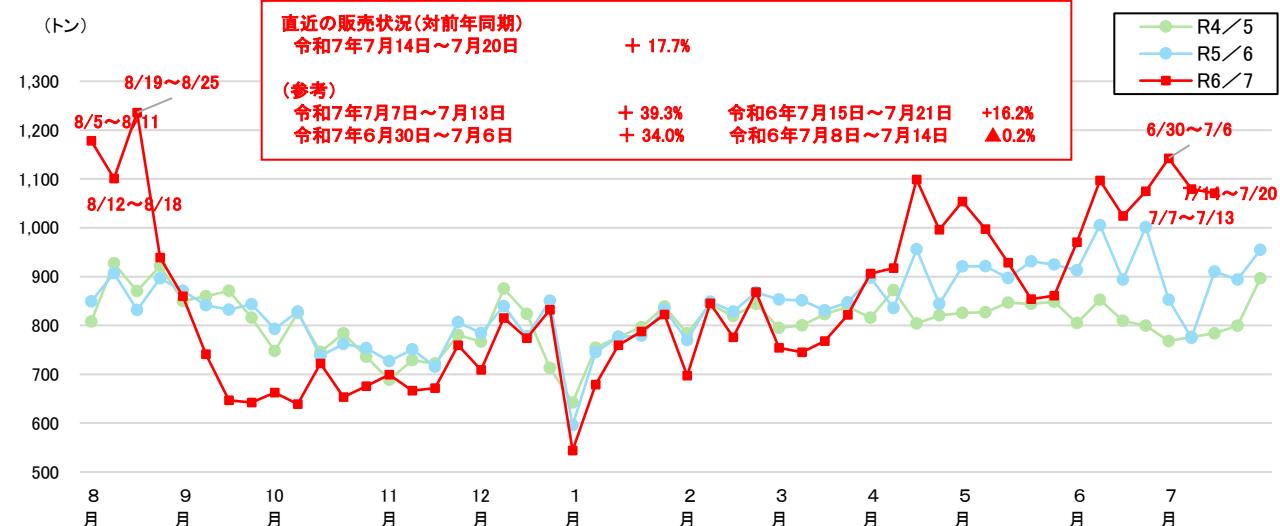
- 令和6年産米の令和7年6月までの年産平均価格24,751円/60kgは、出荷業者と卸売業者等の間の取引価格としては、比較可能な平成2年以降で過去最高の価格。



注: 年産別平均価格(令和6年産は、出回りから令和7年6月までの速報値)。

(3) スーパーでの販売数量の推移(POSデータに基づき作成、全国・週次)

- 令和6年4月以降の販売量は、令和4年及び5年と比較して堅調に推移。
- 令和6年8月に買い込み需要が発生したこと等により伸びが著しい週が3週継続した後、概ね前年同程度か、前年を下回る水準で推移。政府備蓄米の流通が進んだ令和7年4月以降は、増加傾向で推移。
- 令和7年7月14日～7月20日の販売数量は対前年同期+17.7%。



資料:(株)KSP-SPが提供するPOSデータ(全国約1,000店舗のスーパー、生協等)に基づいて農林水産省が作成。

注: 週次データを月ベースに当てはめているため、実際の月とは異なる場合がある。